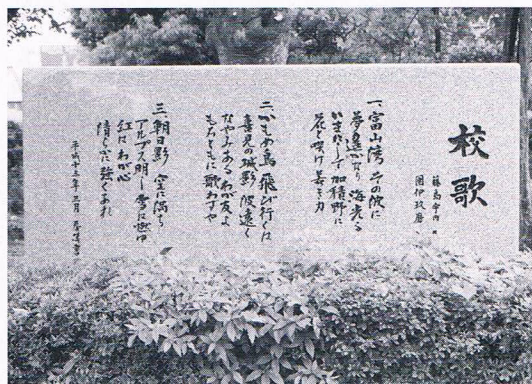


窓

— 同窓会だより —

No. 99 (平成 27. 3. 2発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



ひつじ年になると思い出すことがある。24年前の1991年ひつじ年の元日は会社で迎えた。大晦日から泊まり込みで、お客様対策本部の責任者として「東京23区の市内局番3ケタから4ケタへの切り替え」に立ち会った。当時の630万加入を超える東京23区内の電話番号を瞬時に切り替えを行った。間違い電話を最小限にするため、1年以上前から国内・海外を問わず徹底的なPR作戦を展開した。その甲斐があつて、大きな混乱もなく無事に完了できた。



当時の通信事情というのは、全国5000万からなる加入電話の更なる増加が見込まれ、その通信の中心も音声のみならずファックスやデータ伝送、無線ではポケットベルが伸長し通信のボリュームが飛躍的に伸びていた時期でもあった。しかしながら、現在、四半世紀を振り返るとその後の通信技術の進歩とともにその後の加入電話はピーク時から半減し、それにとつて代わって携帯電話は1億6000万加入と爆発的に普及し今ではそのうちスマートフォンが6割を超えた。固定通信の分野においても、高品

位な画像・映像の伝送を可能とするFTHH(ファイバー・ツー・ザ・ホーム)が2000万加入に近づくまでになった。一方その伸長と呼応し1990年代後半から急速に普及しはじめたインターネット利用人口は、現在、日本では1億人、世界においては30億人を超えるまでになった。

ICTと地方創生

NTTファイナンス株式会社
代表取締役社長

前田 幸一

(魚高22回)

方創生のためにはその地域などの産業の芽とICT基盤を結びつけ知恵とアイデアを駆使し、新たなビジネスを創造できる「ベンチャー・マインド」を持った若手人材の育成が重要であることは言うまでもない。
昨年7月、魚津高校2年生の10名が企業研修として当社を訪れた。東京の会社や大学を訪問することで、これからの社会生活に対する動機づけを行うのが目的だということ。最近の在校生は地元指向が強いとの事だが、彼らが都会の大学などで学んだあとUターンして活躍

術)に他ならない。その活用によって個人のライフスタイルやワークスタイルが確実に変化し、産業界にあつてもビジネスモデルの革新を促すことになる。そのきざしとして、地方のビジネス分野においては電子決済、物流システム、ビッグデータなどを組み合わせたICT基盤を積極的に活用して、その地域の特性を活かして製品や物産を世界中にデリバリーすること成功を遂げている企業なども数々生まれてきている。加えて、地

できる道が必要である。今年3月に北陸新幹線が開通するが、ストロー現象で都会に人・物・金がすい寄せられるのではなく、都市部の一極集中を打破し、各地方を拠点とした分散型社会を実現していくためには、重ねてICTの持つ可能性を強調したい。
余談ではあるが、当社のイメージアップに活躍していたらいい。る女優の團遥香さんは、魚高の校歌を作曲した團伊玖磨氏のお孫さんであることを発見した。

母校に寄せる思い

川岸 勇一

(魚高30回)

高校を卒業してから37年が経った。教員になりたいとの思いを抱いて県外の大学へ進学したはずが、室生犀星の生家近くで下宿した影響もあって、日に日に「ふるさと」は遠きにおいて思う「人生を送りたい」との思いが強くなった。全国各地へ遠征した漕艇部での4年間の体験もその思いに拍車をかけた。しかし、思いはかなわず、卒業後すぐにUターンして市役所に就職。今では、犀星の一節は遠きになり、唱歌ふるさと「いつの日にか帰らん♪」や富山県ふるさとの歌「あまた帰るよ ふるさとの空♪」の一節を聴く機会のほうが多い毎日を送っている。

現在、教育委員会に勤務し、市内の12小学校を4校に統合する業務に携わっているが、全国の市町村ではこれまでに以上に少子化対策と地方創生が大きな課題になっている。時代にあわせて子どもたちの教育環境を整える一方、地域に残る若者が増えるようにふるさと教育も重要になると思っている。



清田 博明

(魚高41回)

魚高OBには国内外の各分野で活躍している人材も多く、それが良き伝統だと思っているが、ふるさとで活躍する人材が少しでも増えることも願っている。

職場は母校の近くにあり、すぐ横を魚高生が通学し、グラウンドからは懐かしい球音や校歌も聞こえてくる。食堂は消えコンビニで買物する後輩たち。鞆でなくリュックを背負う姿。全校マラソンやプール飛び込みがなくなり、応援団の姿は消え、校舎も様変わり。当時のままのスタンドや桜の木。体育大会で熱く燃える姿や校歌に寄せる思いは今も昔も変わらない。芭蕉の不易流行ではないが、魚高や野球部の伝統は変化しながら確実に引き継がれている。

いつの日にか甲子園アルプススタンドから母校を応援できる日が来ることを37年間心待ちにしている。



日々、使命感をもって

清田 博明

(魚高41回)

魚高を卒業して四半世紀が経過しましたが、体力は高校生当時の勢いは当然ですがなくなりました。しかし、精神面は今でも当時の勢いには負けてはいません。今、人生がほんとに面白い時期なのだと思いに言い聞かせています。

大学で建築学を専攻し、現在家を継いで家のリフォームや建築設備や水道管工事に携わっています。わが社は『快適生活を応援します』をモットーに掲げ、お客様の生活の不満や要望をより改善していく、そしてお客様の満足に近づきたいと考えています。普段の業務から何をどうしたら良いかを日々考える毎日です。

また、我々の業界は水道管も扱っていますが、破損、漏れなどといった短期間のトラブルでも生活に支障をきたすこともあります。だから、生命の存続に不可欠な「水」というライフラインを守っているという自覚と責任をもち精進していかねばと考えています。

最近大地震、洪水、土砂崩れな



ど災害が頻繁に発生していますが、集落や一部地域が孤立し、生活に困難をきたすことも少なくありません。万が一災害が発生した場合、被災地での応急給水や復旧等の応急対策業務を応援協力するといった災害時協定を各地域において組合を通して各自自治体と締結しています。

我々の仕事は、「命」にかかわるものだと使命感を感じています。そして日頃の業務で培った技術を生かし有事に備えています。

ただ、その備えが日常業務以外に必要とされないことを切に願っています。

第16回魚津高校同窓会「ゴルフ大会」

平成26年9月21日 魚津国際カントリークラブにて開催



- ガツポーズの優勝者
森田 仁さん(魚高36回卒)
- | | | |
|----|------|----|
| 優勝 | 森田 仁 | さん |
| 次勝 | 盛永 俊 | さん |
| 3位 | 原 康 | さん |
| 4位 | 海野 貢 | さん |
| 5位 | 石崎 由 | さん |

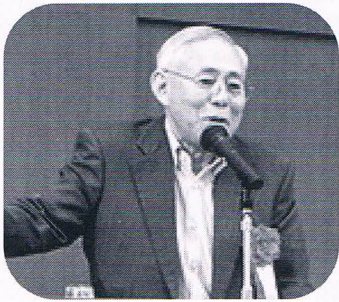
平成26年度同窓会総会講演のあらまし

少子化人口減時代と最近の大学事情

富山国際大学学長 中島 恭一氏

1. 私の歩みを振り返る

魚津高校時代、高校1年の時の「蜃気楼旋風」、甲子園球場での18回延長0対0の名試合を応援したことが思い出される。1961年に京都大学に入学し、大学院修士課程まで6年間学んだが、日本初のノーベル賞受賞湯川秀樹博士の講義を聴くことができた。「未知の世界を探索する人々は、地図を持たない旅行者である」「一日生きることは、一歩進むことではない」という博士の言葉は、学長の式辞で何回か取り上げた。



大学院修了後、姫路工業大学（現在の兵庫県立大学）で23年半勤務し、「丈夫で長持ち」し、安全なシステムを造るための科学である「信頼性工学」「システム安全工学」を専門として究めることにした。その間、1982年から一年間、ドイツ（当時は西ドイツ）のカーlsruhe原子核研究センターに留学した。当時、日本は高度成長で「うなぎ登り」だったが、ドイツでは、労働時間を守り、日曜はデパートを含め完全休み、夏は長期休暇といった生活スタイルにはカルチャーショックを受けた。1990年にUターンして、富山県立大学に勤務した。大学開設から博士課程設置まで、新設大学を軌道に乗せるために教育・研究に励み、2001年に学長に就任した。「地域の知の拠点・人材育成の拠点」として、地域の企業総ぐるみで応援してもらい、2004年には「就職率日本一」にも輝き、「就職に強い大学」が定着することとなった。現在は、富山県内の大学への強い思いから、富山国際大学・富山短期大学学長を務めている。

2. 最近の大学事情・質的転換を迫られる日本の大学

18歳人口は、昭和35年以降では最高で249万人（昭和41年）にまでなったが、昨年は123万人、平成43年度には100万人を割る予定だ。大学全入に近づいている今日、学生は多様化し大学間競争も激化している。学力も意欲も目的意識も差のある学生達にどう向かうか、大学教育は質的転換を迫られている。専門性だけでなく人間性・社会性・社会人基礎力（コミュニケーション力・協働力・課題解決力など）、グローバル人材の育成（富山国際大学の教育方針）など、質の高い、層の厚い人材育成が求められている。

日本の教育への公的投資はGDP比3.6%で、OECD30か国中4年連続して最下位である。教育の公的支出の増大が必要である。

3. 少子化・人口減時代にどう備えるか

去る5月8日の日本創成会議の提言が衝撃を与えた。523自治体に消滅の可能性があり、ストップ少子化を目指し、脱「東京一極集中」と地方元気戦略が必要であるとの提言だ。現在の出生率が続くと、2060年には8500万人、2100年には半分以下の500万人になる予測だ。また、

首都圏（日本全体の面積の3.6%）に全人口の28%、私立大学の33%が集中している。政府は2060年に1億人を維持したいと言っているがその達成は至難であろう。ドイツは日本とほぼ同じ面積で現在8000万人である。

人口減は当然、成長の限界をもたらす。そのため、成長・拡大型から成熟・安定型社会への転換が必要だ。資源循環、環境調和、労働・子育て、人間協調、安心・安全、教育・福祉・文化などの面から質の高い生活の創造、そして持続可能な社会のあり方が求められる。ドイツに学ぶことも必要ではないか。今、ドイツは欧州危機を救う牽引役を果たしている。年間の平均労働時間は、日本は約1750時間だがドイツは約1400時間、効率よく働き、質の高い生活を維持している。メルケル首相は、日本の原発事故を受けて、原発廃止を決めた。持続可能性と未来への責任という観点からだ。日本はどういう考え方をしていくのか。自立型地域コミュニティの形成が大事である。地域で福祉・環境・生活と経済がうまく回り、個性豊かで活力のある地域社会を創造していくかねばならない。地域で活躍する人材の育成が地方大学に求められている。（魚高13回）

久しぶりの 講演会を楽しむ

兵庫魚高会会長

室澤 基範

兵庫魚高会総会は10月4日、神戸北野プラザ「六甲荘」で開催された。北村一三男副会長の司会で、室澤基範会長が開会の挨拶をした。

講演会では、松永健一技術士が「エネルギーの歴史と今後の予測」と題して講演、日本中を震撼させた原子力の話とあつて、会員は熱心に聞いていた。

懇親会は、長井良孝副会長の司会で始まり、同窓会の千田則行会長、國香正稔校長のメッセージに続き、三井信義大阪、中村忠義滋賀、谷川拓至奈良の各都道府県会長が挨拶。北村一三男さんが乾杯の発声をして、懇親会に入り歓談となった。

宴が進むにつれてカラオケ大会になり、金川明嗣さんのこきりこ節からスタート、兵庫県カラオケ大会で優勝した北村さんやプロなみの長井さん、19回卒組の佐瀬恵子さんと木村仁一さんのデュエットは参加者全員を魅了した。長老吉崎敬さんの年を感じさせない若さにも驚いた。

最後に全員で校歌を斉唱、金川明嗣副会長が万歳を三唱して散会した。

平成26年度 同窓会総会報告

共に校歌を歌える
幸せを胸に

心配した台風もコースを外れ、8月10日、総会がホテルグランミラージュにて開かれた。

千田則行会長が、「本校の前身の一つ魚津実業高校の同窓会が閉会となった。実業の校旗を掲げ思いをつないでいきたい」と挨拶を述べ、続いて國香正稔校長が、「東北プロジェクトには同窓会からも支援していただき、今年は気仙沼高校生徒を招き交流ができた」と日頃の支援に感謝の意を述べた。議事においては120周年記念事業として、桜木植樹とウッドデッキの改修が承認された。

講演は、富山国際大学学長中島恭一氏(13回卒)により「少子化人口減時代と最近の大学事情」と題して行われ、日本の人口減問題にどう向き合えばよいのか、一人一人が自分の問題として深く考えさせられる時間となった。

懇親会は、幹事学年代表香掛栄一郎氏(45回卒)の挨拶で始まり、千田会長の挨拶の後、熊谷組会長の大田弘氏の祝辞、室澤基範兵庫魚高会会長、三井信義大阪魚高会会長の近況報告と続き、中尾哲雄名誉会長の発声で乾杯、和やかな雰囲気の中で親交を深めた。林久嗣前PTA会長

から東北プロジェクトについての報告があり、麗しいお召し物の魚女の方々のスピーチもあった。

幹事引き継ぎの挨拶を濱元克吉氏(46回卒)が述べ、澤崎義敬魚津市長が「魚高の伝統を皆で共有して行こう」と万歳を三唱し、同窓生として今年も共に校歌を歌える幸せを胸に会は幕を閉じた。

部 活 動 (後 期) 主 な 活 躍

陸上競技部	■第51回富山県高等学校新人陸上競技対抗選手権大会	男子三段跳	1位
	■第19回北信越高等学校新人陸上競技大会	男子3000mSC	1位
放送部	■第26回富山県高等学校文化祭 放送部門発表会	アナウンス部門	優秀賞 1名
		朗読部門	優秀賞 1名
写真部	■第26回富山県高等学校文化祭	写真部門	優秀賞 1名
文芸部	■第26回富山県高等学校文化祭	詩部門	最優秀賞 1名
		散文部門	優秀賞 1名
新聞部	■第61回富山県高等学校新聞コンクール		最優秀賞
将棋部	■第23回全国高等学校文化連盟新人大会出場		
弁論同好会	■第38回全国高等学校総合文化祭	弁論部門	優良賞 1名
ダンス同好会	■全国高等学校ダンスドリル選手権大会2014全国大会	ヒップホップ男子部門	2位

同窓会連絡係 (平成26年度)

1組	一島 良輔	上田 真子
2組	○ 土井 理詩	松谷 香穂
3組	◎ 遠藤 萌生	高橋 光璃
4組	膳亀 偉央	小林 萌葉
5組	水野 僚明	岩田 雅

◎学年代表 ○副代表



次年度全国高総文祭 滋賀大会出場権獲得作品 「喰われてたまるか」2年 政二康文



最優秀賞を受賞した 魚高新聞を持つ 新聞部員たち



富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地
TEL (0765) 22-0221
FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice.tv.jp/~gyokou/index.html>
魚津高校ホームページ
<http://www.uzu-h.tym.ed.jp/>

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。